

私がなぜ現在の科目を選んだか

## 「消化器外科」

信州大学医学部外科学講座(1)

清水 明

近年、医師不足、特に産婦人科や小児科の医師不足がよく取り上げられていますが、外科も入局者が少ない現状です。消化器外科の魅力や楽しさ（もちろん辛さも）は沢山ありますが、学生の頃にはなかなかそういうものを感じ取ることは難しいですし、学生の頃に消化器外科に対して持っていたイメージも、入ってみるとかなり違う、という面もあると思います。

大学6年生で進路を決める時、私は実は循環器内科が一番を考えていました。何か技術を身につけて活躍する科がいい、特に心カテをやってみたい、という考えがあったのですが、あまり頭脳に自信のなかった私は、ポリクリで内科の先生に言われた「君は外科向きだね」という一言であっさり内科を諦め、消化器外科をメインに持つ現在の科に入局することにしました。

学生の頃は、外科は体力勝負、という単純なイメージしかなかったのですが、いざ入局してみると、体力はもちろん必要でしたが、それ以上に、解剖の知識や病態生理を始め、画像検査の読影能力、種々の合併症の評価と全身管理、そして手術手技等々、様々なものが要求される科だということを知りました。また、手術だけでなく、研究も盛んに行われていることも、入ってみて初めて分かることでした。

消化器外科の対象となる疾患は多々ありますが、やはり悪性腫瘍が大部分です。様々な治療法の進歩の中でも、進行度にもよりますが、手術が治療法の第一選択とされている疾患がまだまだ多いのも事実です。目の前の患者さんに対して、一番いいと思われる治療を判断して、実際に提供できる、ということが、外科に限らずとも、それぞれの診療科における醍醐味だと思います。消化器外科の分野で、自分も常にそうありたいと日々精進しています。実感するまでに少し時間がかかるかもしれませんが、少しでも外科に興味を持っている方に、この魅力を実際に感じてもらえたら、と願っております。

(信大平8年卒)

私がなぜ現在の科目を選んだか

## 「小児科」

国立病院機構長野病院小児科

兒 玉 美 帆

私の学年は今の研修システムの前、最初から科を決める時代でしたので、大学6年生の国家試験の前に何科になるかいろいろ考え決めました。小児科を選んだ理由は何であったか、今聞かれると、まず、学生時代のポリクリで回った科の印象で一個一個消えてゆき、最後に残った科が小児科であったということと同級生の誘いが大きかったと思います。

実際小児科医になってみて、毎日子供とその親に接し、大変なことも多いのですが、入院時の具合の悪かった子供が元気になって、「先生ありがとう」と手を振って帰っていく姿をみるたびにやりがいを感じてい

ます。働きはじめてから、もっと他の科のほうが自分にあっているのではないかと悩み、小児科をやめたいと思ったこともありましたが、そのたび、上の先生に話を聞いていただき、励まされ、現在まで続けることができました。今はそんな悩みもなくなり、一番自分にあっている科であると思います。

小児科は全身を見ることができ、また、何か一つ専門を決めてプロにもなれる科です。また、子供の置かれる環境、両親も見なくてはなりません。私は結構親を見ることが好きです。また、女医さんにとっても、自分の実生活に役に立つ、手術時間の長い外科系の科に比べて体力がなくても続けられる、などの点で向いている科であると思います。

未来のある子供達のために日々過ごしていきたいと思えます。ずっと、子供達と関わることがうれしいです。

(東京女子医大平13年卒)